



地域の人に、懸命に働く職員に、安心と幸せを

1913年(大正2年)に創立された芳野病院。医療介護の提供を通し、そこに住む方々が安心して幸せに住み続けられるよう奉仕することを使命として地域に貢献してきた。病院は安全で快適な医療・介護の提供だけではなく職場環境の改善にも力を注いでいる。職場環境の改善は安定的な人材確保、定着率の向上、安定した経営と組織体制の継続と安全と質を向上させることに寄与する。これは一人で達成できるものではないため、全職員に経営者意識の浸透を図るとともに、一人ひとりが能力を100%発揮できるよう制度を整備している。

●●● 私たちの宣言内容 ●●●

- 男女問わず育児休業を推進します。
- 多様な働き方の受容のため、ワーク・ライフ・バランスについての研修(情報提供)を新入職オリエンテーション時に実施します。

芳野病院からのメッセージ

当院は、子育て応援宣言を始めとし様々な両立支援の取組を行ってきました。

制度の整備もその一つで、結婚や出産介護など、職員がライフイベントを理由に退職せずに働きつづけられる方法として考えられた「男女問わず



育児休業の取得を推進、「年1回の5~7日間連続休暇の奨励」「子が小学校1年生の春休みまで短時間勤務ができる制度」「多種多様な57種の勤務形態」の4つが柱となっています。また、職場復帰の研修プログラムや管理職を対象にしたセミナーを開催する他、キッズサマースクールの開催により社員が互いの家族状況を知り協力し合う雰囲気づくりをするなど、子育てを支援する風土づくりも推進してきました。これにより全職員に制度を利用する意識が定着、利用者も増加しています。

制度づくりと風土づくりを両方行なうことで、女性の育児休業取得・復帰率や、男性の育児休業取得率が上昇、効果を実感しています。また、取組が評価されて、平成25年には公益財団法人日本生産性本部選出により、第6回ワーク・ライフ・バランス大賞優秀賞を受賞し、平成27年7月には、職場環境に関するより高い水準の取組を行った企業を特例認定する厚生労働省事業の『プラチナくるみん』に福岡県内で初めて認定されました。ワーク・ライフ・バランスの実践が難しいと言われる医療業界でこのような評価を受けることはたいへん嬉しいことです。これからも、地域の皆様をはじめ、毎日、懸命に働く職員のためにも、より努力を重ね、すべての人から愛される病院を目指したいと思います。

院長自ら、育児休業を勧める環境です。

今から約30年前に院長の芳野が留学先の米国で目の当たりにしたのは、上司(男性)が定時より1時間早く退社し、子供を保育園へ迎えに行くという光景でした。男性が育児に参加することは当たり前のこ



広報担当 池辺さん(左)
WLB&ダイバーシティ推進室長 小川さん(右)

とどと感じたそうです。この経験により、当院には、男性職員の育児休業取得にもトップ自らが声かけをするという幸せな環境があります。

育児と仕事を両立しながら、質の高い仕事ができるような様々な取組に積極的に挑戦し続けたいと思っています。

育児休業制度を利用しました！！



作業療法科
副主任
石渡 充さん

平成27年2月、妻の出産日から退院までの5日間、育児休業制度を利用しました。

初めての育児参加で不慣れなことばかりでしたが、出産から妻と一緒に育児休業を取得できたことで家族の絆が深まったと感じました。職場の上司や、周りのスタッフ達の理解と協力に感謝しています。